

# 経済・金融 フラッシュ

## 1月マネー動向： 貸出低迷が鮮明に

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

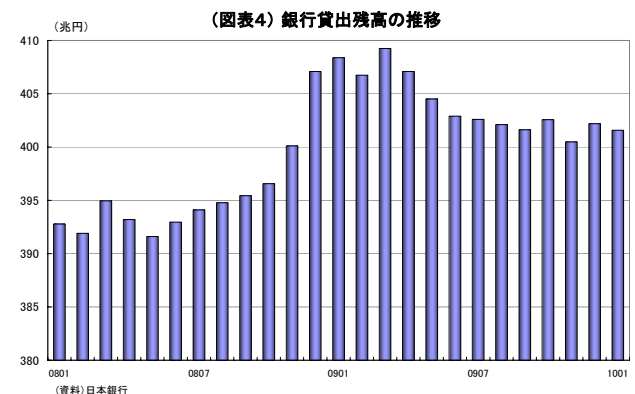
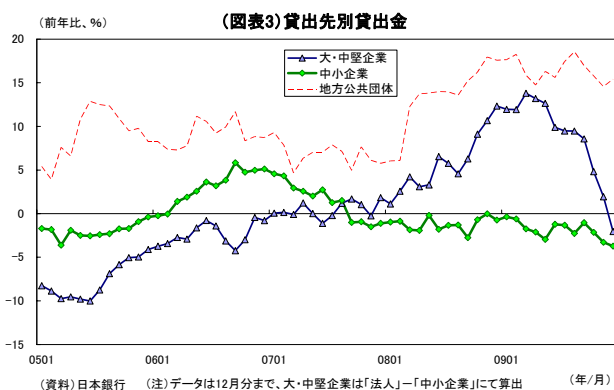
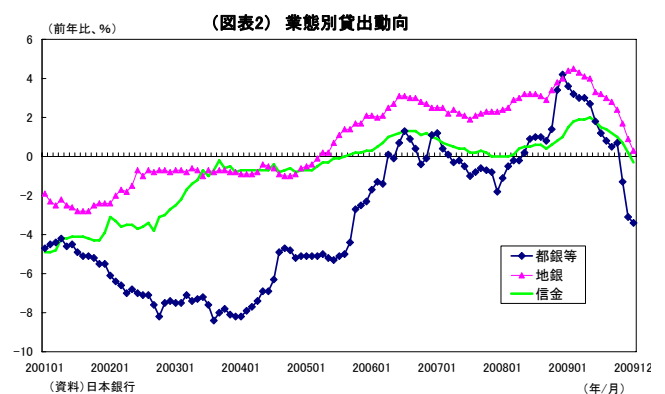
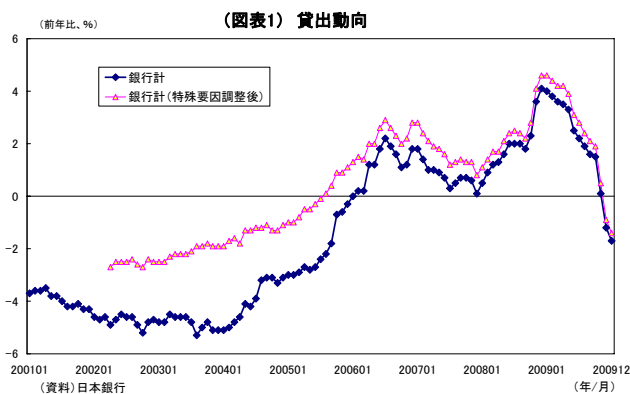
TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

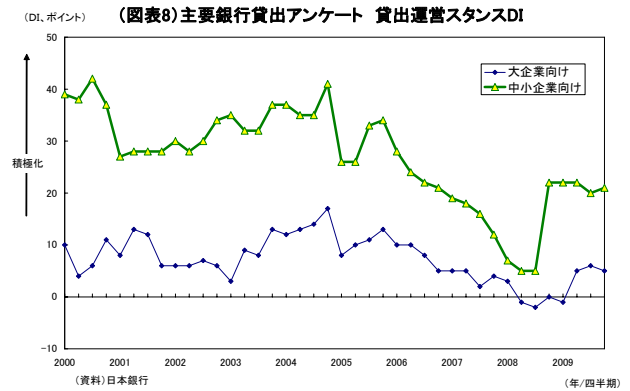
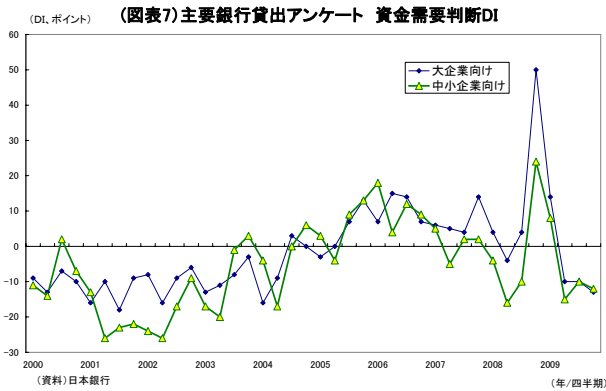
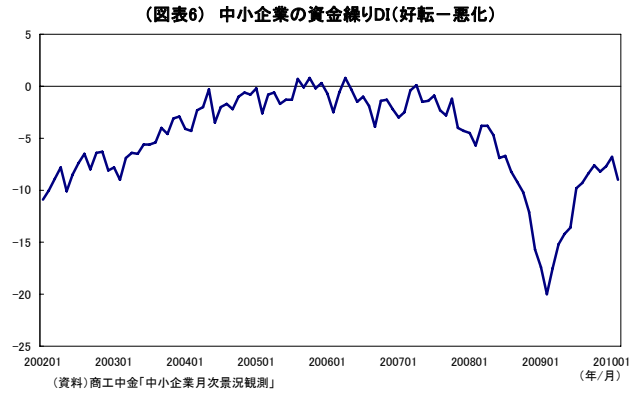
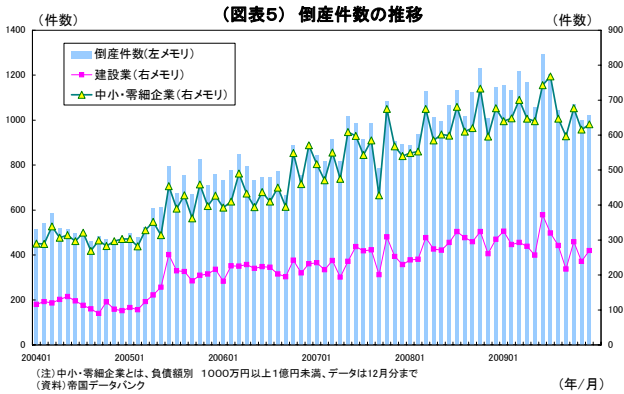
### 1. 貸出動向：貸出低迷が鮮明に

日銀の貸出・資金吸収動向等によると、1月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は▲1.7%と4年ぶりの前年割れとなった12月(同▲1.2%)に続きマイナスとなった。貸出低迷が鮮明になっている。

都銀等では同▲3.4%(前月は▲3.1%)とマイナス幅がさらに拡大した。比較対象である09年1月はリーマン・ショック後の金融市場の混乱に伴う貸出の急増が生じていた時期であり、その反動が出ているというテクニカルな面もあるが、企業の設備・運転資金の需要低迷により、銀行貸出残高自体が弱めに推移しているという要素も否めない(図表1~4)。

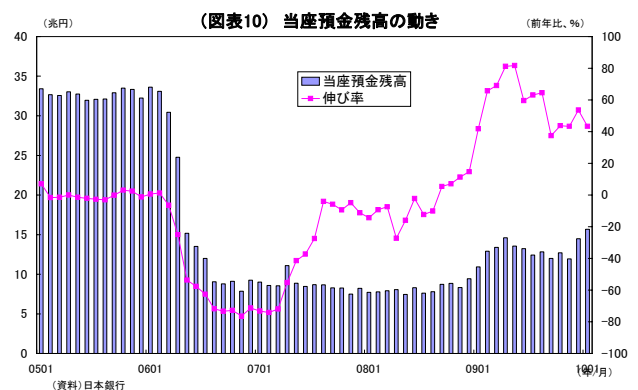
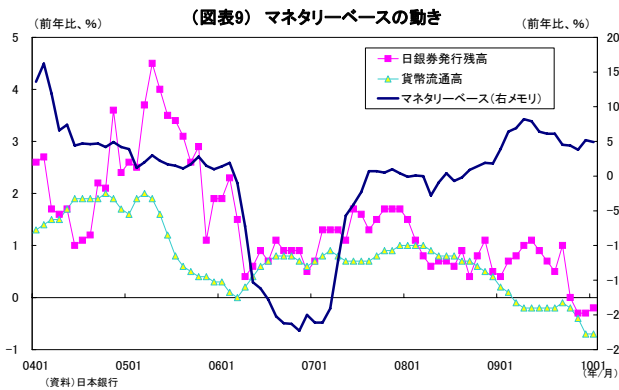
企業の倒産、資金繰りの状況を見ると、貸出はしばらく弱めの動きとなりそうだ(図表5~8)。





## 2. マネタリーベース：追加緩和を背景に高い伸び率が続く

日銀による資金供給量を示す1月のマネタリーベースは、前年同月比4.9%増(前月は5.2%増)となった。17ヶ月連続の前年比プラス。日銀の積極緩和で当座預金が高い伸びを示していることが寄与している。日銀の緩和は当面維持されるとみられ、マネタリーベースは今後も高水準で推移するだろう(図表9,10)。

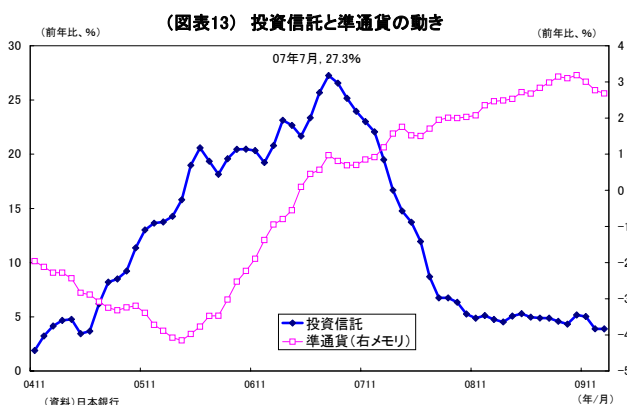
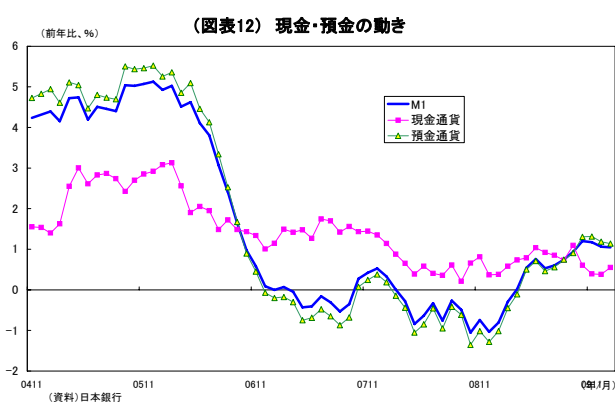
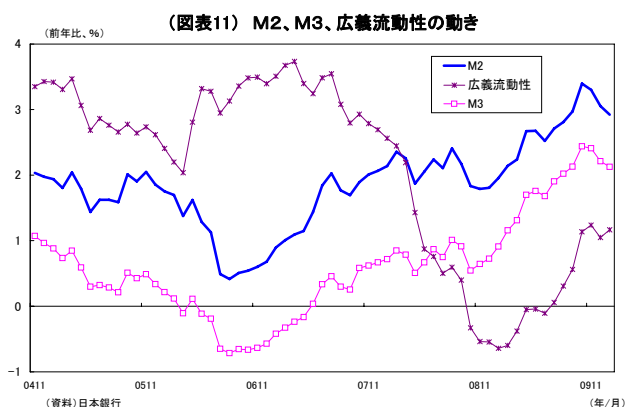


### 3. マネーストック：通貨供給量の伸びは引き続き高水準

通貨供給量の代表的指標である1月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年同月比2.9%増（前月は3.1%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.1%増（前月は2.2%増）と、それぞれ前月と比べやや低下したが、まあまあの伸びが続いている。

M3に投信や外債などを含めた広義流動性は前年比1.2%増（前月は1.0%増）となり、広義流動性の伸びがM3の伸びを下回る状況が続いている（図表11）。

家計等のリスク回避の動きが投資信託などの伸びを抑えており、それが広義流動性低迷の要因となっている（図表13）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。